

シンポジウム

社会的敗北モデルマウスを用いた栄養・代謝研究

豊田 淳

茨城大学農学部生物生産科学科

日本はストレス社会と言われはじめてから久しいが、抜本的な解決策を見出せずに今日に至っている。私どもは、栄養学的アプローチで脳とところの疾患を克服することを目標とし、研究している。主にラット、マウス等の実験動物を用いて、農産物等の天然素材やその成分に抗うつ、抗ストレス作用がないか探索している。また、うつ病のモデル動物を作成し、モデルの栄養および代謝特性について調べている。本講演では、私どもが研究対象としている社会的敗北モデルから得た研究成果を紹介する。社会的敗北モデルはうつ病モデルとして広く研究に利用されているが、その栄養・代謝などについては未知の部分が多い。私どもは、本モデルの血漿、肝臓、盲腸のメタボローム解析を行い、敗北ストレスで変動する代謝産物を見出しているため、それら分子について報告するとともに、栄養学的アプローチでうつ病を予防することは可能かどうか議論していきたい。

(参考文献)

Iio et al., Amino Acids, 43, 2037-2046, 2012.

Goto et al., Behav. Brain Res., 270, 339-348, 2014.

Goto et al., J. Proteome Res., 14, 1025-1032, 2015.

Goto et al., Nutr. Neurosci., in press.

略 歴

現所属：茨城大学農学部生物生産科学科 准教授

平成 5 年 3 月	京都大学農学部畜産学科卒業
平成 5 年 4 月	京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程入学
平成 7 年 3 月	同修了
平成 7 年 4 月	新技術事業団・創造科学事業、高井生体時系プロジェクト技術員
平成 9 年 4 月	茨城大学農学部助手に採用
平成 15 年 11 月	京都大学博士(農学)取得
平成 17 年 7 月	茨城大学講師農学部
平成 22 年 4 月	茨城大学准教授農学部
平成 22 年 7 月	東京農工大学准教授連合農学研究科併任

現在に至る